

わくわく読書の発表 5・6年

11月10日（金）



通称「わく読」。全校が集まって読書する全校読書、読み聞かせなど様々なバリエーションで行っています。その中で、読書や国語の授業内容からの各学年が発表する時間の紹介です。

6年生は、修学旅行の写真をもとに、自分が読んだ俳句を披露してくれました。

5年生は、国語「伝わる表現を選ぼう」の学習から寸劇+クイズ。中身を紹介します。

校長に尋ねるなら、ていねいな言葉を使わなければと思い、「校長先生、質問があるでござる。」・・・どこがおかしいでしょう、みんなに意見を求めます。

もう1つ。絵画展示の前で、「〇〇君、君の絵、やばいね。」と言われた友達はショックを受けます。ほめたつもりなのに、どこがおかしかったのか、と意見を求めます。この問いに、「やばいには、よくないという意味も入っているのに使ったこと、とても心に響く素晴らしい作品だという意味の言葉を使えばよかった。」「やばいね、を先に言うとかよくない。『とてもいい絵だね、やばいよ。』といいことを先に言って、後からつけるとよかった。」と。発表も回答の中身にも感心した時間になりました。



わくわく読書の発表 3・4年 12月 1日 (金)



通称「わく読」。その中で、読書や国語の授業内容からの各学年が発表する時間の紹介です。今回は、3・4年生。



4年生は、国語で学んだ「要約」を短い劇で伝えてくれました。題材は、「桃太郎」これがショートストーリー3本仕立てで発表です。要約とは内容はそのままに文を短くして伝えること。お話が変わってしまうとダメだというユーモアを交えて伝えてくれました。

3年生は、劇で表現したのは、どの「慣用句」なのかを3択クイズで見つけるというものでした。

ボクシングを始めて3日の選手に、チャンピオンが負けてしまう「猿も木から落ちる」編。



世界一うまい、うまい棒を3つの国の開発者が開発し、2つの国の開発者が徹夜で奪い合っていて気絶している間に手に入れた「漁夫の利」編。

どんなお手伝いをしても、「はい10円。」と渡されるお駄賃に不平を言う子どもたち。でも、いつの間にかまとまったお金になっていた「塵も積もれば山となる」編。練習もしたのでしょう。ストーリー、演技やしぐさに大いに笑い、感心した時間でした。

